

令和 7 年度（令和 8 年度集計）体罰およびセクシュアル・ハラスメント等 に関する調査結果について

千葉市教育委員会では、令和 7 年度分の市立の小・中・中等教育・特別支援・高等学校の児童生徒および教職員を対象とした、体罰およびセクシュアル・ハラスメント等に関する調査結果を取りまとめましたので、お知らせします。

1 調査の目的

本調査は、児童生徒や教職員から訴えがあった実数の正確な把握に努め、児童生徒と教職員および教職員同士の関わり合いの中で起こる体罰やハラスメント等の行為に関する実態の詳細を把握することで、教職員の人権意識の高揚および指導力の向上を図り、児童生徒が充実した学校生活を送れるようにすることを目的として実施した。

本調査で把握された実態をもとに、各学校において、体罰およびハラスメント等の防止対策の徹底を図り、児童生徒および教職員にとって、よりよい学校環境づくりに取り組む。

2 調査方法等

(1) 調査対象者

市立の小・中・中等教育・特別支援・高等学校に在籍する児童生徒および教職員（臨時・会計年度任用職員を含む）

※小学校・特別支援学校は保護者も含む。

(2) 調査対象期間

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 2 月 2 0 日

(3) 実施方法

- ・「無記名も可」としてアンケート調査を実施した。

- ・オンライン回答をモデル校で実施

児童生徒対象 6 校（小学校 2 校・中学校 2 校・高等学校 2 校）

教職員対象 9 校（小学校 2 校・中学校 2 校・特別支援学校 3 校・高等学校 2 校）

(4) 回収方法等

- ・全校種の児童生徒は自宅で回答し、担任を介さず管理職が各教室をまわり回収するほか、教育委員会へ郵送による提出も可能とした。

- ・教職員の回答は管理職が回収し、教育委員会「スクールレスキュー」へ郵送による提出も可能とした。

- ・オンライン回答は「ちば電子申請サービス」を活用し、教育委員会が集約した回答データを各学校へ送付し、事実確認および報告を依頼した。

3 調査結果等

令和 7 年度集計までは、アンケート結果を踏まえた聞き取り調査により、体罰やハラスメント等を認知した件数を公表していたが、令和 8 年度集計は、実態をより分かりやすく示すため、アンケートにおいて体罰およびハラスメント等を「受けた」「見た」ことがあると回答した件数を公表する。（別紙参照）

また、これまでと同様に、寄せられた回答については、「匿名の回答」や「調査を望まない回答」にも配慮しつつ、可能な限り児童生徒や教職員に事実確認を行い、不適切な行為

や行き過ぎた行為、言葉の暴力、ハラスメントと認められる事案については、当該教職員に対する指導等、必要な対応を図っている。

なお、事実確認を行った事案のうち、懲戒処分に該当するものはなかった。

4 今後の取り組み

(1) 各学校での取り組み

ア 不祥事防止のためのセルフチェックの実施や、人権・コンプライアンスに関する各種研修の受講等により、教職員の児童生徒等に対する接し方の改善・向上を図る。

イ 学校において全ての教職員が管理職や同僚等に相談しやすい組織風土を確立し、教職員相互のチェックや連携強化等により、体罰やセクシュアル・ハラスメント等の未然防止に努める。

(2) 教育委員会での取り組み

ア 毎年4月を「生命（いのち）の安全教育月間」とし、子どもたちが暴力の加害者や被害者、傍観者にならないよう、全市立学校において子どもの権利や暴力から自分の心と体を守るための予防方法等について学ぶ機会を設ける。また、児童生徒の発達段階や学校現場の状況により適した実施方法になるよう、適宜見直しを図っていく。

イ 教職員に対し、外部講師による安全配慮義務、性暴力等防止などに関する研修を実施するとともに、禁止されている性暴力につながる危険のある行為について、「児童生徒を性暴力から守る行動指針」等を活用し周知徹底を図る。

ウ 各学校等を訪問し、管理職や担当職員へのヒアリングを行い、コンプライアンスに係る取り組みの実施状況を点検する。また、教職員に対し、各種ハラスメントの防止等に関する指針を周知するとともに、相談窓口としてスクールレスキューを案内する。

エ 実効性のある対策について、児童生徒性暴力等防止対策検討委員会により調査審議する体制を継続することで「暴力のない安全・安心な学校づくり」を推進する。当該委員会からの答申を踏まえ、次の取り組みを実施する。

- ・子どもにこにこサポートの充実
- ・第三者による死角点検の実施
- ・不祥事防止のためのセルフチェックの対象者拡充
- ・児童生徒を性暴力から守る行動指針の改善
- ・教職員の児童生徒への性暴力発生時の対応フローの改善 など

オ 事案発生時の初期対応フローについて、学校への周知を徹底するとともに、事案発生時には各機関と連携して迅速・的確に対応する。

カ これまでの調査では、「セクハラ」の言葉や多くの漢字が使われているなど、児童生徒にとって、伝わりにくい聞き方になっていることから、より回答しやすい表現や項目設定にするなど、調査方法を総合的に見直す。

5 その他

今回の調査結果については、市教育委員会ホームページに掲載する。

【URL】 <http://www.city.chiba.jp/kyoiku/kyoikusomu/kyoikushokuin/index.html>

